



「邪馬台三国志」に沿った年表

(※は「この頃」の意 下線部は邪馬台国にまつわる記事)

西 暦	日 本	中国・朝鮮半島	インド・ペルシヤ・西域
BC 2400	(縄文中期)	※炎帝と黄帝、阪泉の野で決戦 ※黄帝、神国中国を興し、神国づくり	※インダス文明、栄える
2300	※黄帝一門、九州に渡来して海神を従え、那珂川流域に那珂つ国建国	※五代天帝の舜、禹に帝位を譲る	
2000	那珂つ国王、海神王も兼ねて神仙の国づくり・畑作に入れ込む ※三内丸山の大集落、衰退	※禹の兄・啓、神代と決別し夏王朝樹立	インド・アリア人、パンジャブ地方に侵入
1100	(縄文後期)		
1050	那珂つ国、畿内に進出し、縄文勢と頻繁に交易 ※八ヶ岳近辺の縄文集落、衰退	※太伯、荊蛮の地に呉建国 ※周武王、殷を滅ぼし、周王朝樹立 紂王の叔父・箕子を朝鮮に策封	※ゾロアスター、天啓を受ける
660	(縄文晩期)	※周公、二都による封建体制を布く ※韓祖の韓武子、魏祖の畢万、共に獻帝(前676~651)に仕える	※ペルシヤ、インダス地方併呑
BC 494		呉王夫差、越王勾踐を会稽に降す	
480		※孔子、没す	
473	※呉太伯ら子孫、九州西北に渡来し、天之国建国	夫差、勾踐に敗れて自決。呉、滅亡	※仏陀、没す
403	那珂つ国に取り入り、水田稲作・集落づくり指導		※マカダ国、ガンジス川流域統一
334	(この頃、九州西北で水田稲作始まる)	※晋から分裂の韓・魏・趙、諸侯に列す ※楚、越を滅ぼす	
256	※那珂つ国と天之国、天地と称して近畿・東海西部まで進出		アレキサンダー大王、侵入
230	越勢、福岡平野にオロチ・葦之國王朝樹立。那珂つ国を出雲追放	秦、周室を滅ぼす	※マウリア王朝、興る
221	福岡平野に都した葦之國本家の宗像家、一門を各地に策封	韓を滅ぼす。韓勢鮮半島に流浪	※パルティア国、興る
206	吉野ヶ里→後世の伊都国 奈良盆地→オロチ三輪氏、	魏・斉・燕を滅ぼす	※アショーク王、即位
202	出雲→佐太国 摂津→小千氏 北陸→越オロチ(後世の越智氏)	秦始皇帝、中国統一。泰山で封禪	
	(この頃、北九州・瀬戸内沿岸・畿内・北陸・東海に水田稲作拡大)	徐福を東海上の神仙三島に送る	
	韓勢、一門を半島に策封(後世の三韓)後、唐津湾岸に來襲	秦、滅亡。秦の流民、朝鮮に流れる	
	天之国と韓勢(日高国)、盟約して葦之國王朝を倒し、倭国王朝樹立	劉邦(高祖)、漢朝を興し、皇帝に昇る	
	(弥生前期の幕開け)		
	※倭国、唐津や唐津や福岡平野に都して、周公の政再現図る。		
	東進して近畿・東海まで支配。国を挙げて水田稲作推進		
	敗れた宗像家、遠賀川流域に引きこもり、天之国に従属		
BC 194		※燕の衛満、箕子朝鮮を乗っ取る	※マウリア王朝、滅亡
141	倭国に流れ来た漢の王族、国東半島に豊国を賜る	※朝鮮王準、南鮮に逃れ、韓氏と語る	
前二世紀中頃	※葦分家の葦原家、中つ国・豊国と盟約して、葦原中つ国王朝樹立	齊・秦の流民を馬韓や辰韓に入植	
	福岡平野の早良・那珂近辺に都して、百余国を統治	前漢七代皇帝、武帝即位。西域の匈奴勢力を一掃。楽浪郡設置。泰山で封禪	カニシカ王、即位
	宗像家を宗家に祭り上げ、自ら葦之國本家と僭称	司馬遷、『史記』を書き上げる	※アンドラ王朝、成立
	吉野ヶ里の葦分家、葦原中つ国を出雲に追放し、伊都国王朝樹立。	※「地理志」「倭人、歳時を持って来り」	
	糸島平野怡土に都し、百余国を封建統治		
	漢に朝貢。神国づくり・儒教に沿った政にまい進		
AD 8		王莽、漢を乗っ取り、「新」建国	
25	※天之国女帝の天常立、葦原中つ国の国常立と組み、伊都国打倒	光武帝劉秀、漢朝を再興	
56	倭奴国王朝を樹立。怡土に天宮して初代女系天神に即位	楽浪郡設置、北ベトナム支配	クシヤン朝、成立
57	日高の高皇産靈に十握剣を授け、王朝と女帝を親衛させる	泰山で封禪。郊祭して倭の使者に謁見	
	伊都国を古巢の吉野ヶ里に押し戻す		
	国常立、後漢に朝貢し、金印「漢委奴国王」・方格規矩鏡等を賜る	※仏教、中国に伝来	
AD 107	倭奴国王(倭面土)、後漢に朝貢し、生口 160 人を献上	※蔡倫、紙発明	※アンドラ王朝、最盛期
150	※摂津三嶋鴨族の面足、六代倭王に立ち、三島(高槻市)に都す	※パルティア国安世高、仏教を伝える	※カニシカ王、即位
170	三嶋流神国づくりに入れ込む	※南朝鮮では馬韓、弁韓、辰韓が隆盛	※マガダ大王、天台山へ
184	※伊奘諾、七代女系天神天之尾羽張から七代倭王拝命	※マガダ大王、天台山山王に昇った後、出雲へ飛来	
	神国・天竺流常世づくりに邁進。淡路島・宮津に副都す		
	※山王、葦原中つ国の大穴持(大国王、牛頭天王)に昇った後、伊奘諾に養子入りし、熊野櫛御毛野、豊受(天照)皇太神と語る	黄布の乱	
	皇太神、向津姫に養子入り。唐古に副都して東方統治に専念		
	皇太神、三輪オロチら畿内勢と組み、伊奘諾に謀反		
	伊奘諾の妃伊奘冉を攝津で拉致し、出雲半島黄泉国に幽閉		
	伊奘諾、播磨・攝津の磐石(伊和邑)を急襲		
	皇太神、出雲の月夜見国(黄泉国)で天下分け目の決戦に大勝		
	瑞穂葦之國王朝(邪馬台国)を建て、天叢雲、天照大神と語る		
	磯城唐古に天宮して水天神と語り、常世づくりにまい進		
	嫡子の天鹿兒山も、出雲国杵築に天宮して、火天神に昇る	※日隈・天(葦)の一派、新羅を篡奪	
	伊奘諾、七代天神の宗女向津姫、素戔鳴らと共に日向に敗走	※素戔鳴、新羅に出奔	
	あわき原で禊払い(降伏の儀式)		
191	(高天/邪馬台国~日前/ヒミコの倭国~和国/日本朝の時代)	曹操(曹丕の父)、黄布青州軍を破り、30万の兵を得る。漢大將軍に就く	
192	向津姫、天之国の天照大御神と日神に昇り、高千穂宮に天宮す		
	日神、徳と真心による政を推進。臣下が鑄造した真経津鏡(八咫鏡)を天璽と定め、天之国と高天を再興。倭国王朝再現を決意		
	素戔鳴、日神の水天神天照大神祭祀に怒り、暴れる→五十猛と共に新羅に出奔後、奥出雲に潜入して八俣大蛇(天照大神親子)を退治		
	出雲熊野家を再興するも、葦原中つ国再興に挫折		
	素戔鳴の兄大己貴、葦原中つ国を再建して、安芸~播磨も支配		

西 暦	日 本	中国・朝鮮半島	インド・ペルシャ・西域
204 208	※大己貴、新羅王子天日槍(五十猛)の新羅騎馬軍団を宍粟邑で撃破 越(高志)オロチと盟約し、西と北から邪馬台国を執拗に攻撃 日神と盟約した天照大神、高皇産靈と語り、高千穂宮入り 天孫饒速日(初代垂仁)、大倭に天降ったが、一年後に急逝	公孫氏、楽浪郡南方の帯方郡を開拓 呉、赤壁の戦いに大勝	
220 ～ ～	※高皇産靈、武甕槌らを出雲に遣り、葦原中つ国平定 大己貴、戦わずして降伏し、天神の御子に国譲り 皇孫(天孫)火瓊瓊杵、陸摩の笠沙(加世田市)に都して、日隈再興 天照大神(高皇産靈)、天火明・大己貴らを連れ、大倭に帰国 天火明(二代垂仁)、大倭に日高見国建国。関東～陸奥平定の準備 天照大神、大倭で急逝→纏向石塚古墳に埋葬 日神、素戔嗚と共到大倭に遷座し、纏向一之宮入り 瑞穂巖之国王朝を天(巖)王朝(倭)に衣替え。女王ヒミコに立つ ヒミコ、祝いの八咫鏡(三角縁神獸鏡)を豪族たちに配布 仏塔になぞらえた常世(纏向ホケノ古墳など)づくりに着手 中国・畿内・東海の太氏と大倭家、銅鐸を一斉放棄	曹丕、後漢献帝を廃し、魏王朝樹立 劉備、(蜀)漢王朝興す。孫権、呉建国	※アンドラ王朝分裂  ※バルティア国、滅亡 ペルシャにササン朝興る。 バルテア王国、滅亡
230	※天火明、東国に日高見国を移し、千葉県市原市に東都開設 火瓊瓊杵の兄・火折、大倭に降臨して、誉津別と語る 天火明の兄誉津別、日向に天降り、火火出見(山幸彦)と語る ヒミコ、伊都国(吉野ヶ里)に副都開設。天之国將軍武甕槌を派遣	孫権、皇帝と称し、漢と結盟。亶洲探索 遼東に兵一万を送るが、裏切られる 諸葛孔明、五丈原にて陣没	※アンドラ王朝、滅亡
237 238	※海幸彦、日前太子の座を巡り、火火出見(山幸彦)と争う ヒミコの使節、十二月初めに明帝に見える 呉の使節、呉鏡を持参して、日前に到る	明帝、冬至の日に郊祭。 正月、司馬宣王に公孫氏征伐を下命	
240	赤烏元年(238年)銘の呉鏡、伝来(山梨県で出土) 魏帝の勅書・印綬・鏡(方格規矩鏡)百枚、ヒミコの手元に届く ヒミコ、祝い(祭祀用)の魏帝鏡(方格規矩鏡)を豪族たちに配布	明帝、239年元旦に急逝。齊王即位 帯方郡の太守、倭国に使者を派遣	
245	※火火出見に敗れた海幸彦、命乞いして火火出見の宮殿守護を誓約 ※火瓊瓊杵、ヒミコに謀反。日前軍、北進して邪馬台国軍と交戦 魏帝、帯方郡を通じて倭の大夫に黄懂授与 天火明、ヒミコに叛く	帯方郡の太守、倭国に張政を派遣	
248	ヒミコ、火瓊瓊杵と和睦して、天火明・尾張勢・日高見勢を追放 ※天火明、常陸・陸奥に遁走し、日高見国と僭称 海幸彦(火明饒速日)、大倭に降臨して、饒速日・火明の家督相続 ヒミコ、倭姫と伊勢遷座。翌年、八十歳で逝く→箸墓円形壇に眠る		
250	※火明饒速日(二代垂仁)、日本朝を開き倭王に立つが、國中乱れる ヒミコの宗女トヨ(豊鍬入姫)を二代女王に担ぎ、國中鎮まる 張政帰国後、円壇を周濠付き円墳に改築→墳上にヒミコを本葬 祝いの鉄剣を豪族たちに配布 十握剣を神璽として女王を守護し、三嶋流神国づくりに邁進		※クシャン朝、滅亡
264 266	※火瓊瓊杵、逝去。養子で跡継ぎの火火出見、家督相続 火火出見、高千穂宮(都城市/霧島市)で日神の政再現にまい進 女王トヨ、晋に朝貢 火明饒速日、ヒミコ陵を帆立貝形前方後円墳に改築→泰山に見立 てて郊祭し、天照国照彦天火明饒速日と僭称して天神に昇る 景行、倭王に就任。女王トヨ、逝去→倭迹迹日百襲姫が三代女王に 立つが、程なく逝去→氣息足姫(神功)、四代女王に立つ 景行、西南征夷將軍の彦狭嶋と共に熊襲征伐に赴くが、惨敗	司馬炎が魏帝を廃し、晋を建国  晋武帝、十一月に倭国から貢物を受ける 翌月冬至の日に郊祭し、倭国使節に謁見	
280 285 290 290年代末 301 (辛酉年) 304	※景行、足掛け六年も抑留される。280年代前半、日向から帰国 火火出見、逝去 磐余彦、火火出見の名と家督を継ぎ、高千穂宮(宮崎市)に都す 呉の鏡作り工を招き、葬送用八咫鏡(三角縁神獸鏡)を量産 仲哀、神功・日本武・吉備津彦らと熊襲征伐に赴き、檀日に副都す 磐余彦、日本朝を討つべく東征。北九州を席卷 神功・日本武・吉備津彦・竹内宿禰を捕らえ、味方に引き込む 倭(迹迹)姫、五代女王に立つ 磐余彦、神功に新羅征伐下命。日本武に吉備・出雲征伐下命 吉備・出雲・播磨を攻略。古墳に戦死者と三角縁神獸鏡等を埋納 長スネ彦、降伏。日本朝瓦解。長スネ彦の兄、アビ彦、陸奥に走る 火明饒速日、帰順を願い出る 磐余彦、和国流葬送儀礼で以て敵武將を黒塚古墳に埋葬 樞原宮造宮に着手。日本武尊に北伐下命 (大和朝廷時代) 磐余彦、大和朝廷を開き、初代天皇(神武)に即位 火明饒速日の兄可美真手(物部氏)、磐余彦火火出見の宮殿守護 火明饒速日、逝去。周濠付き宝来(蓬萊)山古墳(奈良市)に眠る 田道間守、不老不死を叶えるミカンの木を西域から持ち帰る 磐余彦、日神と高皇産靈の斎場(桜井茶臼山古墳)を鳥見山中に造営 鳥見山祭場で郊祭して皇天を天に配し、皇祖天神(皇宗)に奉る 磐余彦、逝去→磐余地方の日向型メスリ山古墳に眠る？	晋、呉を滅ぼし中国を統一          以後、各地に古墳が造られ、磐余彦やヒミコの八咫鏡(共に三角縁 神獸鏡)・魏帝鏡(方格規矩鏡)・鉄剣などが埋納される	田道間守、不老不死の仙薬 を求めて弱水に渡る

